

農政局だより @ひょうご

2023.3
H-SATT

〒650-0024

神戸市中央区海岸通29 神戸地方合同庁舎

TEL:078-331-5924 Email:hyogo28_hsatt_kinki@maff.go.jp



農業女子アワード2022 ベストウーマン賞受賞！

Last One Spoon～若づるα化米粉 辻 朋子さん



ベストウーマン賞

最優秀賞



画像上：東京の会場で発表する辻さん

画像右・下：酒米の山田錦を使用した商品（α化米粉・お米サブレ）



農業女子アワードは、食・農・くらしの活性化に向け、女性農業者や若者の個性を活かした農業経営を行っているビジネスアイデアを募集して広く発信するものです。

令和5年2月14日(火)、東京都で開催された最終審査でファイナリスト(5部門3組)が出演し、ベストウーマン賞には酒米のα化米粉の活用を発表した、**多可町の辻 朋子さん**が選ばれました。



辻さんは、食の専門家や事業者の方と連携し、酒米を活用した嚥下(えんげ)食を介護現場に提供しています。食べる人・介護する人・酒米を生産する人・米粉を製造する人、皆さんが笑顔になるために課題を克服していきたいと、今後の展望を笑顔で話されました。



“Last One Spoon”とは？酒造好適米「山田錦」を米粉にしたのはどうして？

辻さんが熱い思いを語っておられるアワードの様子はコチラ

⇒ https://myfarm.co.jp/women/nougyoujoshi_award2022/finalist.html



鳥獣被害防止オンラインセミナーを開催しました



令和5年3月3日(金)、兵庫県森林動物研究センター、丹波篠山市の協力を得て、「鳥獣被害防止オンラインセミナー」を開催しました。

冒頭、近畿農政局から管内の被害現状と対策について説明した後、兵庫県森林動物研究センターの廣瀬氏から、シカ・イノシシの生態、獣被害防止に向けた集落や個人での取り組み方などについてわかりやすく説明していただきました。また、丹波篠山市の安井氏からは、マイナス課題の獣害対策をプラス(前向きに)ととらえ、関係人口を増やすなど地域を元気にする市の取組事例を紹介していただきました。



兵庫県内外から約100名が参加





地産地消！有機野菜！元プロ野球選手が 農家レストランをOPEN！～ 〈神戸市西区 C-farm 稲垣将幸さん〉



就農前にクラウドファンディングで資金を集め、農家レストラン「C-farmcafe」を神戸市西区にオープンされた稲垣将幸さんをご紹介します。

－カフェオープンのきっかけは－

前職の頃に知り合いの農家を手伝い、自分自身は田植えや稲刈りなどが楽しい経験であった反面、農家の方から「後継者不足・高齢化・儲からない」という農業の直面する問題を聞き衝撃を受けました。

その際、SNSを利用して自らが販売したところ、かなりの高額で売ることができた経験から売り方を工夫すれば若くとも農業で生計を立てるのは可能だと感じ、就農する際には飲食店をあわせて経営し農産物の受け皿とすることが最適だと考えました。

農業研修と並行しながらカフェのオープンを目指し、クラウドファンディングで資金を集め昨年11月に無事オープンしました。



無農薬無化学肥料で栽培する畑

－どのような農業をされていますか－

就農相談を受けてくれた方がたまたま有機農業をされていたため、そのままその方へ弟子入りし有機農業を学びました。

前職の四国アイランドリーグの野球選手時代から食事や体調管理に気を配っていたこともあり、農薬や化学肥料を使わない農業に取り組むことにしました。

現在はカフェ周辺の遊休農地を借り受けて農薬・化学肥料不使用の野菜を栽培しカフェの食材にしているほか他の飲食店やスーパーマーケットに卸したり、店頭でも販売しています。

－今後の展開は？－

カフェの食材は神戸市産にこだわっています。今後は自分で生産できるものは自分で生産し、カフェの中心食材としていきたい。

カフェに来店する方の中には農業の後継者問題などを理解されている方も多くいます。そういった方々の中から農業に触れる人を一人でも増やしたいとの考えから農業体験者を受入れたり、また、地域の空き家を借りて一時貸しを行い農村風景の中で働きたいフリーランスの方などを受け入れ、地域への関係人口を増やす活動をする計画をしています。



人気のランチプレート

令和3年度オーガニックビジネス実践拠点づくり事業の取組事例集について

農林水産省では、有機農業に取組む農業者等を支援するための補助事業の一つとして「オーガニックビジネス実践拠点づくり事業」を実施しています。令和3年度に事業に取り組まれた全国の事例について、農林水産省のホームページで公表していますのでご参照下さい。

近畿地区では6地域が取り組まれていて、兵庫県では「神戸有機農業者CSA推進協議会」（神戸市）が紹介されています。

詳しくは <https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/youuki/know.html>



令和5年4月1日からスタート

陸上養殖業が届出制になります！

「内水面漁業の振興に関する法律」に基づき、陸上養殖業が届出養殖業として定められました。



詳しくは <https://www.jfa.maff.go.jp/j/saibai/yousyoku/taishitsu-kyoka.html>



農林水産省では「みどりの食料システム戦略」を進めていくために様々な取組を行っています。今月は、温室効果ガス削減に関する取組を紹介します。

取組1：農林水産分野におけるカーボン・クレジットの推進

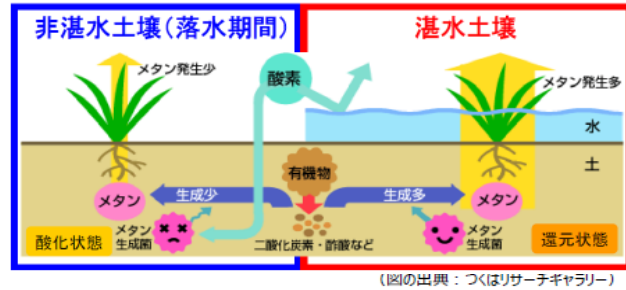
J-クレジットにおける「水稻栽培による中干し期間の延長」が新たな方法論として承認されました

我が国全体のメタン排出量の約4割を占める水田からのメタン排出の削減を推進しています。

3月1日、第29回 J-クレジット制度運営委員会において、「水稻栽培による中干し期間の延長」が J-クレジット制度における新たな方法論として承認されました。

中干し期間を、その水田における直近2か年以上の実施日数の平均より7日間以上延長し、所定の審査を受けると、削減量分の「クレジット」の認証を受けることができます。

メタン発生仕組み



・水田から発生するメタンは、土壌に含まれる有機物や、肥料として与えられた有機物を分解して生じる、二酸化炭素・酢酸などから、嫌気性菌であるメタン生成菌の働きにより生成される。

・水田からのメタンの発生を減らすには、**落水期間を長くすること(=中干し期間の延長の実施)**が重要。

詳しくは <https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/climate/jccredit/top.html>

取組2：環境負担低減の「見える化」の推進

店頭で温室効果ガスの削減率を星の数で表示する「見える化」を進めています

生産者の環境負担低減の努力を“見える化”するため、コメ、トマト、キュウリの3品目を対象に温室効果ガス簡易算定シートを作成し、消費者への訴求効果についてラベル表示の効果を検証する実証販売を実施しています。

その取組参加店舗が累計100か所を超えました。(令和5年3月7日現在)

ラベル表示について

コメ・トマト・キュウリの実証では、



削減率 5%以上で★1つ
削減率10%以上で★2つ
削減率20%以上で★3つ
を付与しています。



今後は、対象品目の拡大を図っていく予定です。
(3品目 → 20品目)

「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、温室効果ガス削減効果を分かりやすく情報発信することで、消費者が地球環境に良い農産物を選択できる環境を整えていきます。

詳しくは https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b_kankyo/230307.html



「雇用就農資金 令和5年度第1回目」の募集を行っています (令和5年6月事業開始分)

農林水産省は、雇用就農者の確保・育成を推進するため、49歳以下の就農希望者を新たに雇用する農業法人等に対して「雇用就農資金」を助成しており、現在募集を行っています。

助成内容

支援タイプ	助成期間	助成額※1,2
雇用就農者育成 独立支援タイプ	最長 4年間	年間最大 60万円 (月額5万円)
新法人設立支援 タイプ		年間最大120万円 (月額10万円) (3-4年目は最大60万円) (月額5万円)

募集締切

令和5年4月4日 (火) 必着

募集要領等の詳細については、全国新規就農相談センターのホームページをご確認ください。

詳しくは

https://www.be-farmer.jp/farmer/employment_fund/



※1)各タイプともに、新規雇用就農者が多様な人材(障がい者、生活困窮者、刑務所出所者等)の場合は、年間最大15万円(月額1.25万円)が加算されます。
※2)事業実施期間が3ヶ月未満の場合は助成金は交付されません。

第10回

丹波農業グランプリ

テーマ

丹波の農地を担う取り組み！

が開催されました

主催者、氷上高校の生徒さん、受賞者の皆様



3月3日(金)春日文化ホール(丹波市春日町)において、**丹波市内で特色ある農業に取り組む個人や団体を表彰する“丹波農業グランプリ”**が、就業講座と併せて開催されました。

「丹波の農地を担う取組」をテーマに、当日は、市内の農業者、氷上高校の教職員・生徒、行政機関等、約300名の出席がありました。

主催者挨拶の後、株式会社小田垣商店 代表取締役社長 小田垣昇氏から「黒まめの取組」について記念講演が行われました。

続いて、ノミネートされた農業者と新人賞の方から、活動報告や起業経営で学んだ商品開発のノウハウ等のプレゼンテーション、そして受賞者の発表が行われました。

最優秀のグランプリには、農地集約をして効率の良い耕作を実現するために、パイプラインなどの土地改良事業に尽力した、**有限会社まるきん農林の堀 謙吾さん**(丹波市青垣町)が選ばれました。



グランプリを受賞した堀 謙吾さん

初回から審査員を務める中塚審査委員長からは「丹波の農業は多彩で強い。今後は、丹波から日本の農業を支えていただきたい。」との講評がありました。

第10回 丹波農業グランプリ -受賞者-

- グランプリ ・堀 謙吾 (有限会社 まるきん農林)
- ☆準グランプリ ・荻野 一馬 (株式会社 CKF)
- ☆特別賞 ・須原 隆一 (ひょうたん農場株式会社)
- ☆夢の農業賞 (氷上高校生が選考)
・須原 隆一 (ひょうたん農場株式会社)
- ☆新人賞 (45歳未満ないし、就農後10年以内の農業者)
・中川 清二 (丹波わっしょい農園)



Webサイト「につぼん伝統食図鑑」を開設！

～各地の伝統的な加工食品や日本の奥深い発酵文化を紹介～

農林水産省は、各地域で選定された伝統的な加工食品を紹介するWebサイト **につぼん伝統食図鑑**を開設しました。伝統食の特徴、歴史、地域における保護・継承の取組やアレンジレシピ等についてデータベース化しています。



ぜひ、この図鑑で伝統食の魅力を再発見し、ご家庭での調理、外食企業でのメニュー化・商品開発、海外への発信・普及などにご利用ください。



詳しくは <https://traditional-foods.maff.go.jp>

兵庫の春の風景

にろう
二郎いちご (神戸市北区)



二郎いちごはとても柔らかいため、直売所での販売といちご狩りがメインです。そのため市場では滅多にお目にかかることができません。

写真提供:神戸農業改良普及センター

編集後記

3月は、卒業のシーズンであるが、我が家の二男も高校を卒業した。高校に入学したのが新型コロナウイルスの発生した令和2年で、入学式が終わってから5月中旬頃まで登校できず自宅学習であった。この3年間、学園祭や修学旅行も自粛となり、父兄の参加できる行事もなかった。この度、規制が緩和され父兄の卒業式の出席が可能となり式に出席したが、例年より多くの父兄が参加し、盛大に卒業生を見送ることができた。3月は年度末で、定年退職・異動で職場を離れる方も多い月であるが、4月からの新たな生活にエールを送りたい。(N・A)



地方参事官ホットライン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見・ご質問などがございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまでお問い合わせ下さい。また、広報誌に対するご意見等もお待ちしています。